海蝶ノート 15

吉川英梨

嶋本さんの記事読んで「主人公が親子」に決定

以前の海蝶ノートで、特殊救難隊の基地長（当時）と非常に気まずい対面を果たしたと言う話を書いたのを覚えてらっしゃるでしょうか――。

その２カ月後の2019年５月某日、羽田特殊救難基地と羽田航空基地を取材させていただくことになりました。４月で基地長が異動になったとのこと、新たに就任した松本一勝基地長はどんな方か気を揉んでいると、You Tubeで若かりし頃の松本基地長の勇姿が見られると聞き、早速その動画を拝見しました。

動画は、特殊救難隊員に密着した『地球発22時』という番組でした。転覆船の海難現場へ急行した当時の松本基地長が甲板に降り偵察中に、なんと船が沈没！　映画かと見まがうほど激しい水飛沫を上げて船が沈んでいく中、若かりし松本基地長が海に飛び込み、ヘリで吊り上げられるという『九死に一生』動画でした。

「死ぬかと思った―！」

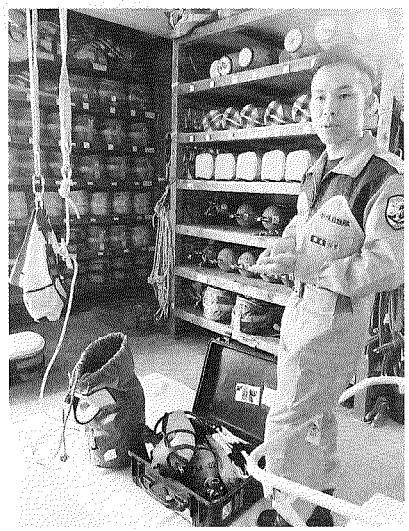
と当時のテレビカメラの前で思わず口走るかつての松本基地長は、状況や言葉とは裏腹に、表情に大きな変化がなかったのが印象に残っています。

意外に冷静だったのかしらなんて思いつつ、当日、羽田特殊救難基地の執務室にて、ご本人と対面です。

変わらない。

転覆真っただ中の船から命からがら脱出したあの20年前の映像と、全く同じクールなポーカーフェイスで出迎えてくださいました（笑）。

命がけの現場から脱出したときの顔と、小説家が基地に取材にやってきたときの顔が変わらない……いやあ、常に冷静沈着な方なのだろうなと察しました。（というより、どこの馬の骨かもわからぬ小説家がいきなり現れて、転覆船よりも警戒をしたのかもしれませんね笑）



資機材について説明してくれた稲葉隊長

その後は現場の隊員さんに救命道具やガス検知器を見せていただき、一階にある倉庫へ。ここでは仮眠するための部屋や各種器具を見せてもらったのですが、特に面白かったのがM２スライダーの説明です。いまでもこのとき撮影した動画をよく見返すのですが、しっかり器具に噛ませてびくともしないロープが、一瞬の操作でパッと外れるあの仕組み、さっぱりわかりません。海上保安庁が開発したものというので、更にびっくりです。ちなみに、諸々施設の案内や器具の取り扱いについて教えてくださった隊長さん……どこかで見覚えがあるなぁと思っていたら、特殊救難隊カレンダーで見事な筋肉を披露してらっしゃった稲葉亮太隊長でした。ありがとうございました。

その夜、特殊救難基地の幹部の方々と夕食をご一緒させてもらいました。（松本基地長は酒を飲んでもクール）一番にぎやかにしゃべって面白い話をしてくれたのが、嶋本進一専門官（当時）でした。奥多摩の登攀（とはん）訓練でのエピソードなど驚愕の連続でしたが、もういまにも脱いで筋肉を見せそうなほど陽気に酔っぱらっていらして、大笑いさせていただきました。

後日、海上保安新聞をめくっていると、嶋本さんのお名前が。息子さんも海上保安官として活躍されているそうで、親子で連携し事案を解決したことが記事になっていました。

親子で海上保安官なんて、素敵だなぁ……。

この瞬間、『海蝶』の主人公が親子で海上保安官であるという設定が決まりました。嶋本さんの記事を読まなかったら、この設定は浮かばなかったと思います。感謝！　（つづく）

＝次回は２月25日号

クールな松本基地長、稲葉隊長にも感謝